

連携機関ご紹介コーナー

のりかわ眼科

院長 則川 希貞 Maresada Norikawa

昭和62年/鳥取大学大学院卒業
平成3年4月/益田赤十字病院 眼科勤務
平成8年3月/開業

趣味 乗り鉄です。(乗り鉄:全国の鉄道を乗りつくすこと)
原発事故で不通の常磐線と北海道の一部を除き、JRは青森 大湊線から鹿児島 枕崎線まですべて踏破しています。全国の私鉄も制覇しようとするも、大いなるムダつかいと家内に猛反対にあいました。

毎日の診療で大切にされている事は何ですか
黙々と、ニコニコと、朗らかに。笑顔が健康のヒケツ。

自院のやりがいは何ですか
日曜・休日診察...家内と私の2人で行ってきます。私は休日診察を苦にならないが、一緒に出る家内は大変だと感じている。
入院ベッド6床を持ち、1泊入院手術にも力を入れています。よろしくお願ひいたします。

interview



JA吉田総合病院へ望むこと
不満はありません。今のままこれからも仲良く患者さんのためにやっていきましょう。



のりかわ眼科

住 所 安芸高田市吉田町吉田貴船1853-8
電 話 0826-42-1001
開 業 平成8年3月開業
標榜科 眼科



吉田総合病院はFacebookを利用しています。
QRコードからFacebookに登録して、
吉田総合病院の情報をごらんください。



INFORMATION お知らせ

平成30年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

第4回 市民公開講座 **最期まで“笑顔”で生き抜く**
~ともに暮らそう住み慣れたこのまちで~

平成30年12月8日(土) **入場無料 要約筆記**
[開場] 13:00 [開演] 13:30~16:00 ※事前の申し込みは必要ありません。

クリスタルアージュ 大ホール (安芸高田市民文化センター)
〒731-0501 安芸高田市吉田町吉田761



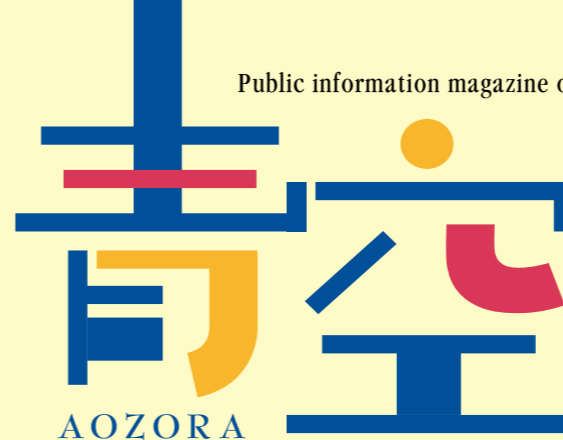
特別講演
「年をとっても自分らしく生きる」
~アドバンス・ケア・プランニングとともに~
有田 健一氏 三原赤十字病院 呼吸器内科医師

講演1 糖尿病のおさらい

宮田 康史氏
JA吉田総合病院
内科医師 地域医療連携室部長

講演2 腰痛にまつわるけがと病気

山本 りさこ氏
JA吉田総合病院 整形外科部長



やさしい心で
良質な医療を

冬号

vol.60

JA吉田総合病院

発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院
〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666
Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007
2018年(平成30年)11月発行
http://yoshida-gene-hospi.jp/

Facebookを開設しました



職場紹介

質の高い看護を追求します

4階病棟 秋広 直子



JA吉田総合病院の4階病棟は、外科、内科、婦人科、泌尿器科、脳神経外科等の入院治療に対応する一般急性期病棟です。病床数は55床で、看護スタッフ38名と各科の医師、その他薬剤師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・社会福祉士が連携してチーム医療を行っています。



外科では主に、大腸や胃などの消化器疾患、腎疾患の透析導入や管理について手術前から手術後の管理・看護を行っています。手術を受けられる方が少しでも安楽に過ごせて早期に回復できるよう、疼痛管理と離床促進に努めます。

内科では、緊急入院が多くあり呼吸器や消化器全般の疾患を受け

入れています。内科治療から手術適応となった場合の外科治療への切り替えをスムーズに行うことができます。これは混合病棟ならではの強みと考えます。

泌尿器科と婦人科では、前立腺や膀胱、子宮や卵巣等の手術に対応しています。手術前後の看護を提供し、退院後も安心して生活できるように日常生活指導を行っています。また抗がん剤治療が必要になった場合、副作用が最小限に抑えられるよう留意しながら治療を行います。

脳神経外科では、脳梗塞・脳出血・脳腫瘍などの治療を行っています。脳は後遺症として障害を抱える場合が多くあり、リハビリテーションが重要となります。特に嚥下障害では誤嚥性肺炎に陥る危険性があるため、嚥下訓練・食事形態の工夫が必要となります。食べる楽しみを含めて日常生活の質を保てるように支援させていただくことが私たちの役割と捉えています。

4階病棟の今年度の戦略の一つに「他職種・他部門と協働して、急性期での退院支援を充実させる」ことを掲げました。入院前の生活やご家族等の周囲の状況を踏まえて、治療終了の時期とその時の患者の要介護状態を予測して、地域の資源が活用できるように他職種・他部門と連携をさせていただいています。

4階病棟は平均在院日数が14日前後であり、入院患者の出入りが多い病棟です。そのため業務が複雑になりやすく、看護師が忙しく動き回っている印象を与えてしまいがちです。しかし、医療・看護には信頼関係が不可欠であり、そのためにはコミュニケーションが重要と考えます。忙しい中でも明るい挨拶と気持ちの良い接遇を心がけ、最良の医療を受けられるよう支援させていただきますので、今後とも4階病棟をよろしくお願いいたします。

平成30年度安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

平成30年度 第1回 ミニ市民公開講座

テーマ：認知症とうまく付き合おう！～地域の対策はどうなっているの？～

日時 平成30年7月12日(木) 18:30～20:00 場所 安芸高田市民文化センタークリスタルアージュ4階小ホール 参加者 31名



上記内容にて第1回ミニ市民公開講座を開催しました。今回は「認知症」をテーマとして、安芸高田市 福祉保健部 健康長寿課 保健師 田村綾子氏に「安芸高田市の現状と取り組みの経過報告」と題して、認知症の安芸高田市の現状と対策・困った時の相談先等を分かりやすくご講演いただきました。その後、JA吉田総合病院 認知症看護認定看護師 川上香奈による「認知症とうまく付き合おう」と題して、日頃の精神神経科で認知症の患者さんと接していて、認知症と誤解される病



取り組みの経過報告」と題して、認知症の安芸高田市の現状と対策・困った時の

気・早期の専門医の受診の大切さ等についての講演がありました。

講演後のアンケート

には、「安芸高田市の取り組みが良く理解出来た」「実際に認知症の親と同居しているが、頭ごなしに否定的な言葉を発してしまう、認知症を理解して予防に努めたい、脳の刺激に日記をつけます」等のご意見をいただきました。

これからも病気に関すること、在宅で困っていること、今後の地域について、情報を発信して参りますので、皆様のご参加をよろしくお願いいたします。



平成30年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

第1回 多職種連携研修会

テーマ 地域が災害！明日を生きるために私たちはどう考え、何をする？

今回の平成30年7月豪雨災害を受け、安芸高田市でも未曾有の河川氾濫の危機・土砂災害の被害等が発生し多くの方が避難されました。その日のことを振り返って確認するために、今回の研修会を開催しました。



最初に、JA吉田総合病院 谷川看護部長の挨拶にて開会、安芸高田市 総務部危機管理課 塚本係長より「平成30年7月豪雨災害」の安芸高田市の状況を、避難状況・被害の状況・消防団の出勤状況・行方不明者の捜索等、時系列にその時々での市役所の対応について説明されました。また、7月27日からの台風12号の対応について、豪雨災害の教訓も踏まえて早期に対応したことを説明されました。

参加された皆さんは、その後、6、7人のグループに分かれて、テーマ①「平成30年7月豪雨その時皆さんは、どう考え、どう動いたのか…」、テーマ②「この度の災害を経験し、これからどう繋げていくか、活かしていくのか…」に沿

て自分の体験・意見・後になって想うことをみんなに伝えました。テーマ①②ではグループ替えを行い、模造紙に書いてある他のグループの意見も見ながら、テーマ②の話を膨らませて何倍もの人の意見を自分の中に取り込むことが出来ました。

研修会後のアンケートの中には、「沢山の人で一つのことを真剣に考える機会があるのは、とても良いことだ」「実際に災害やボランティアの現場を見たことで、今後の心構えを新たにしたい。今回の経験が、次回に役立つ様、私達がすべきことを、今のうちにしないとイケないと感じた」等、日常生活・仕事に当てはめて考える時間となりました。

今後も多職種の連携の絆を深めながら、より住みやすい・助け合う安芸高田市となるように、在宅医療・介護連携推進事業を進めて参りますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。



【日 時】平成30年8月9日(木) 18:30～20:00
【会 場】JA吉田総合病院 南館4階 大会議室
【参加者】47名
【対 象】安芸高田市内の医療・介護・福祉関連従事者

平成30年7月豪雨災害の復興支援に JAグループ広島として参加しました。



豪雨災害の復興支援にJAグループ広島の一員として、他の連合会(中央会・信連・全農・共済連・基金協会)の皆様と共に参加しております。今回は9月18日・19日・20日3日間で、各日8名の支援隊を結成し、10月から「いしじみかん」の出荷が始まるJA呉 倉橋宮農センターで、JA呉の職員と共に豪雨災害で浸水した倉庫内の細かい砂を、高圧洗浄機で洗い流しながら、デッキブラシでこす



り、水切りワイパーで水とともに倉庫の外に掃き出す作業と、倉庫周りの側溝に溜まった土砂の撤去と草取りを行いました。倉庫の作業では、仕上げに消防用高圧ホースで放水を行い、隅々まで綺麗にしました。

9月に入り少し涼しくなりましたが、天候も良く、30分作業して5分休憩を取りながらの作業でも、みんな汗だくになりながら作業を行いました。

AM9時からPM3時までの作業でありましたが、倉庫内・周辺が綺麗になりJA呉の職員の方に大変喜ばれ、参加した皆さんも清々しい気持ちで帰宅しました。

まだまだ、復興が進んでいない地域もあり、今後も継続してJAグループ広島として支援に参加していきます。

【いしじみかん】広島県倉橋町の石地さんが偶然発見した品種です。2000年に登録されました。比較的新しいみかんです。みかんには、収穫時期によって極早生・早生・中生・晩生の種類があります。「いしじ」は、極早生より早く春に花が咲き、遅くまで木に生らして収穫します。木の上で果実が生っている期間が、みかんの中で一番長い品種です。樹上完熟にて収穫するので、みかん本来の甘さとコクがあります。



平成30年度 在宅医療・介護連携推進事業

平成30年度 第2回 ミニ市民公開講座

テーマ：支え方、支えられ方 あなたはどう考える？～「在宅死実態調査」から見たこと～

日時 平成30年9月13日(木) 18:30～20:00 場所 安芸高田市民文化センタークリスタルアージュ4階小ホール 参加者 50名



前回7月に第1回を開催し、今回、2回目となるミニ市民公開講座を、上記テーマにて開催いたしました。内容として、講演①「安芸高田市の現状と取り組み」と題して安芸高田市健康長寿課係長 岡野あかね氏が、これからの安芸高田市は独居高齢者の増加により高齢者の社会的孤立、集落として継続出来ない地域が出てくることを説明しました。続



いて講演②として、在宅医療・介護連携推進事業の「在宅死検討委員会」からの報告として、平成27年度から行っている在宅看取り推進ネットワークでの活動として、在宅での死亡形態等の報告をし、人生の終え方についてみんなで考えました。その後、講演③として安芸高田市地域包括支援センター長 柿上郁子氏と同、社会福祉士 沖田圭司氏により、事例を基に演劇を交

えながら「ACP*1について考える」内容の講演があり、最後に、JA吉田総合病院 地域医療連携室 主任 中村圭子氏が、グループワークにより各自の本日の感想を共有する時間を持ちまとめました。

講演後のアンケートには、「改めて死について考える機会になった」「ACPの重要性を年齢問わず考えなければと思いました」等、集まった皆さんの将来、地域(ご近所の方)の将来について真剣に考える時間になりました。

ミニ市民公開講座も2年目を迎え、関係団体の広報のおかげもあり、市民の皆様にもだいぶ浸透してきました。何回開催したら成果が出るということは無く、その都度変わっていく時代の困り事・これからの課題を取り上げて皆さんと考える講座にしていきます。大勢の市民の方にご参加いただければと思います。



*1 ACPとは…人生の最終段階にどのような医療・ケアを受けたいかを、本人が家族や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス。